

新しいつなぎ飼い方式の実践

佐々木 基 泰

佐々木牧場 紋別郡滝上町滝下 〒099-5552

1. 牧場の沿革

昭和47年頃から乳牛を導入し父の手作り牛舎を2度増築して40頭牛舎で酪農経営を続けてきたが、牛舎が老朽化してきたため、平成12年にL資金で80頭つなぎ牛舎を新築した。その際に育成牛舎、堆肥舎（538㎡／畜環リース）、尿溜（300t）も建設した。

規模拡大をするからには楽に仕事ができるように自動給餌機、ユニットキャリーを導入、同時に、牛に快適な環境を実現するため、トンネル換気、西日よけカーテン、細霧冷房機なども導入し、壁や屋根は20mmウレタン断熱付きにした。ストール幅は135cmで、2cmゴムマットを採用した。牛舎間口を14mとして飼槽前通路の幅を2.6mとり、トラクタが通り抜けられるようにつくった。フリーストールにせずに繋ぎ飼いを選択した理由は、フリーストールにすると蹄の病気が多くなり、体調の悪い牛や発情牛の発見と捕獲が困難と考えたからである。ドロドロの糞尿も扱いたくはなかった。妻もフリーストールの導入には反対だった。

2. 牧場の概要

頭 数	成 牛	83頭
	搾乳牛	72頭
	育成牛	53頭
草 地	牧草	29ha
	コーン	15ha
家 族		6人
労働力		2人

	1999	2000	2001	2002
出荷乳量 t	400	441	693	800
乳蛋白質率%	3.26	3.37	3.36	3.31
乳脂肪率%	4.05	4.05	3.97	3.85

99年度は旧牛舎での成績

02年度は予定（00年8月 自動給餌機導入）

3. 給餌機の導入目的

- ・機械化による省力化
- ・多回数給餌による乳量増加と健康管理

4. 給餌メニュー

飼料名	給餌量
コーンサイレージ・11月～6月	2.7Kg
グラスサイレージ・7月～10月	3.0Kg
乳配	8～13Kg
大豆粕ミール・11月～6月	1～1.5Kg
ビートパルプ	2Kg
乾草	1Kg

5. 導入前の給餌作業

粗飼料 2回 濃厚飼料 4回 6. 導入後

開始	終了	人	給餌内容
7:30	8:30	2	コーンサイレージ・11～6月
8:30	9:00	2	乳配、大豆粕・11～6月
12:00	12:20	1	乳配、アッペンコーン
12:30	12:40	1	乾草
16:00	17:00	2	グラスサイレージ・7～10月
17:00	17:20	2	乳配、大豆粕
19:30	19:50	1	乾草、配合

作業時間 4時間30分・人

6. 導入後の給餌作業

粗飼料 6回 濃厚飼料 6回

開始	終了	人	給餌内容
20:00	20:20	1	乾草

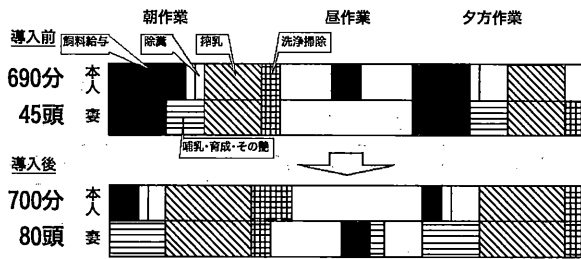
作業時間 20～30分・人

(給餌機による給餌内容)

時刻	6:00、8:00、10:30 13:30、15:30、18:30
給餌内容	全飼料

7. 自動給餌機の導入効果

- ・二人で3時間かかっていた給餌作業が一人で20分くらいに省力化された。
- ・肉体労働から解放され、肉体的、精神的なゆとりが持てた。
- ・牛乳生産量がアップした
- ・労働効率改善により個体管理を徹底
- ・四変などが少なくなった

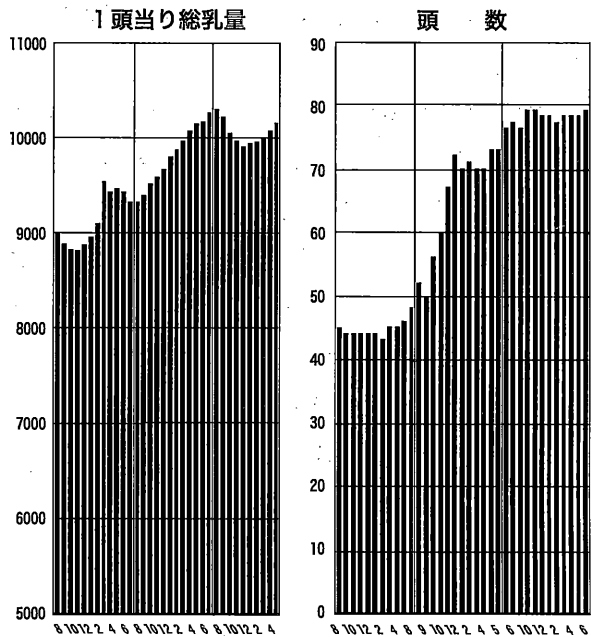


頭数は45頭から80頭に35頭増えているが、一日の総労働時間は10分しか増えていない。力仕事が無くなり、楽になった。学校行事などにも気楽に参加できるようになった。牛が押したり、凍ったサイレージやゴミが詰まるなどのトラブルで、給餌機が停止することもたまにはあるが、携帯電話に自動的に連絡が来るため安心感がある。

表示は全て日本語でされ、飼料計算のシステムとも連動しているので、個体管理も楽になった。

8. 自動給餌機導入による産乳成績向上

	導入直前 1年間	導入直後 1年間	導入後 2年目
平均頭数	45頭	67頭	76頭
乳量	416t	685t	767t
乳量	8988kg	9542kg	9867kg
乳脂肪率	4.1%	3.9%	3.9%
蛋白質率	3.3%	3.3%	3.3%
授精回数	2.3回	2.2回	2.0回
空胎日数	137日	134日	126日



乳量は9,000Kgから10,000Kgへ増加した。乳成分は大きく変わっていないが、導入前旬毎の変動が大きかったのに対し、導入後は少なくなった。繁殖も着実に改善されている。

9. ユニットキャリー導入の効果

導入前は40頭搾乳で搾乳時間は約1時間、現在は、60～70頭の搾乳に約1時間半かかっている。頭数あたりの搾乳時間はほとんど変わっていないが、作業自体は非常に楽になっている。